

平成 24 年 8 月 11 日発行  
第 171 号

# 康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel: (0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax: (0548)32-1280

## 「身近な“モンスター性を持つ人” 出来る事は何？

- 勇気・自信・信念を持ち医療人として“ 穏やか ”に処すか < その 7 > - 」

大津市の中学生の自殺事件が発覚し、野田佳彦首相が「一番大切なのは“いじめの周りにいる子”です「見て見ぬ振りをしない」こと」と訴えて以降、児童虐待・家庭内暴力・配偶者間の暴力(DV)・ストーカーなど 市民の側から 警察に介入を求め、いじめを受けた人が被害届を出す例が日本全国で相次いでいる。市民の求めに応じない「やらなすぎ」で 警察が批判に曝され 事件として報道される一方で、DVの通報で急行し駆け付けた警察官が「本当は優しい人なの」と仲直りした状況を聞かされた後の殺人 夫婦であったのに「ネットで知り合ったので 相手が何の仕事をしていたのかわからなかった」と 打ち明けられたり、現場の警察官が振り回されている状況 苦労は絶えない。それでもそんな中から「犯罪の芽を見つけ 被害を最小限に防ぐ事」今の警察の任務であると するのであろうか？ 警察が乗り出す前に これを当然だと言う前に 学校の在り方・教育現場を問う前に 何か出来る事は無いのか？ モンスターは内政干渉を嫌いながら 事が起こると 外部に責任転換、不都合には 対話無く、更に攻撃的となる。私はこれを“自己完結できないモンスター集団の現象”と 捉えている。

先の第二次世界大戦[=太平洋戦争]が終結するまで 警察の活動は 庶民の生活の細部まで 介入し “目を光らせていた”という、この反省からか 昭和の終わりが近づく頃まで 警察社会では「夫婦げんかは犬も食わない、犬も食わないものは警察も食わない。」こう云い習わされて「家庭の中 市民の生活の中に 過剰に介入しない「小さな警察」が理想」とされ、それでいて 一家の主 “親父に威厳”が在り 多少の暴力行為は当然で 家族が存在し 子供も育てていた。また この頃までは 小・中学校でも “先生に威厳”が在り 教育の下 多少の暴力行為は許されていたように思われる。どこの家族も 時の世の境遇の中 あり方は千差万別でも「家長が家族を統轄 核となり 一家を統制し 自己完結していた」。私の育った 旧加藤家も同じ、祖父半蔵さんは 金も職も無くとも 親とし威厳の実効支配、その後 親父康二さんもまた 愛情故の暴力ありきの家主 お袋雅子の庇護の下 私そして二人の娘が巣立ち 羽ばたいていった。

1968[昭和43]年1月9日 円谷幸吉は 27歳で自殺、「メキシコシティーオリンピックで金メダル獲得宣言」の後 旧軍の流れを継ぐ 自衛隊体育学校の上司の意向で 婚約を破綻にされ 天涯孤立無援に追い込まれた末、遺言「もうすっかり疲れ切ってしまって走れません」の言葉。

ロンドン五輪 前日まで金メダル候補として大きくマスコミに祭り上げられながら メダルに届かず ショックで泣き崩れそうな 卒倒しそうな選手中、この者にマイクが向けられる。「悔しいです」「これが五輪だと思います」と 声を搾り出す。五輪選手は 国の代表とし「負けても“確”と語る責任 これをそれぞれの“個”が自覚して当たり前」これが国民の想いか？ 簡単な事では無い、マイクを向ける側が「愛の鞭とし 厳しく接している姿勢」これがあれば... と考えるが、今の世 週刊誌的話題提供が商売に直結するとし「批判する事がいい記事である」かのように勘違いしている “モンスター記者が存在する事実”も 知らねばならない、

責任とはいえ 事実を正面から受け留める事、そこから先行きが分かれていく、負けた時こそ 人間が試され 批判と向き合う時 本物の強さを養い育てる事が出来る。 加藤寿夫

## 榛原医師会の「緊急停止状態」 即刻現世で処す事

～ 「組織の義」 心得る事を学んで《その 》～

榛原医師会 会長 高木平氏の冒頭挨拶の榛原医師会広報掲載について  
平成24年6月25日開催 榛原医師会 第106回定期総会に於いて榛原医師会会長 高木平氏の冒頭挨拶(一字一句読み上げた内容は 榛原医師会広報第405号 2012年7月号 トップページに掲載され配付・送付文P2,3参照)に違和感を覚え、愕きと嘆きの想い、「緊急停止状態」 即刻現世で処す事、副議長に会長の姿勢に置き換え“書”として[送付文P3右下参照]伝え、会長本人に「己に問い掛けて欲しい」と直訴した。

榛原医師会 副議長 座光寺哲氏宛て書面(平成24年7月2日)より抜粋

6月25日(月)開催 榛原医師会総会 お疲れ様でした。冒頭の会長 高木平氏の挨拶 更にその場での配付、榛原医師会の会員の先生方は 如何様に“感”されたのか、私には「後ろ向き・Negative 志向のトップの姿勢」これを榛原医師会に侵透させようとしているような気がして、大きな違和感を“感”しました。別紙[送付文P3右下の文面]の様に書き換え即座に本人に提示しようと 考えた程の 情け無い思い そんな状況でした。

榛原医師会 高木平会長宛て書面[NO.56-1](平成24年7月4日)より抜粋

何度も申し上げます。以前 5月8日 具体的に書面[NO.54-5]で申し上げた “県レベルでの会議の中での発言”、先週 6月25日(月)開催の “榛原医師会総会に於いての挨拶 そしてこの書面の配付” “実質的な仕事の内容” 考えて “質のある言動”を 願います。貴方 高木平氏の挨拶、私の申し上げてきた事 己に写して処して下さい。

間違っても これらの内容を 医師会の広報等に掲載する事の無い様に “榛原医師会の品位”に関わる問題です。考えて言動願います。

以上の内容は 更に両副会長をはじめ 執行部に直に書を持ち 申し上げた。しかし愕く無かれ 一字一句違わぬ挨拶の読み原稿は [榛原医師会広報 トップページ]に掲載 配付された。この内容「広報とし“書”として 曝される・後世に残る事」会員として組織の一員とし耐えがたい事、榛原医師会員の皆さんは 如何様に考えるのか?

### “康寿診報の医師会員への配付”について

「事を知らされず」に「医師会員各々に事が掌握されていると信じ」発言した事、さぞかし滑稽であったと回顧した」のが事実・現実である。この件「事が成されない状況」 “何も告げられず配付されていない状況”につぎ 面談後一月以上経て 事務長 増田薫氏に電話で問うたその日 8月6日(月)昼過ぎ、過去半年以上私の言動を 無言・隠蔽により封印した[拉致した封書] [平成24年8月3日付 榛原医師会の名の下書面] 更に 8月7日(火)午後[書面]が届いた。私は訂正を願い“書”下記 を示した。

平成24年8月7日(火) 会長 高木平氏への書面[NO.60-1]より抜粋

具体的に「医師会の名のみで “責任者の名”の無き状況」「“時”の経過についての見解・説明無き状況」「事務局が “責”を曖昧に処す“事”」この状態で 事務方が処す事。今回もまた 繰り返されました。

平成24年8月8日(水) 会長 高木平氏への書面[NO.60-2]より抜粋

昨日 平成24年8月7日(火)午後、一昨日 8月6日(月)昼過ぎ[平成24年8月3日付 榛原医師会の名の下書面]に 榛原医師会会長 高木平氏の名 更に「康寿診報」のご返却について」と追加し記され 以下は一字一句違わぬ文面 これを拝受しました。今回の件は「医師

会の名のみで“責任者の名”の無き状況、この解除、一步前進と考えて宜しいでしょうか？  
事務長 増田薫氏には何度も申し上げ 更に 7月13日の面談でも申し上げましたが、康寿診報が拘束された前後を含め 過去 私 加藤寿夫から「如何様な提示・申し出が在ったか」確かめて下さい、その上で 具体的に「“時”の経過についての見解・説明無き状況」この解除を願います。「“拉致された封書”の処遇は 早急に 会長 高木平氏名の下「御自身の“書”」にて 成す事・処す事」願います。

平成24年8月10日(金) 会長 高木平氏への書面[NO.60-3]より抜粋

「“時”は取り返しのつかない 生きている人間の“証”です。「“拉致されていた封書”の処置は 会長 或は 執行部の 責任者の下 正確に 処し事を成す事」願います。この間 私 加藤寿夫から「如何様な提示・申し出が在ったか」専門家の先生はじめ 私の“師”そして“友”とする方には 下記 状況を 伝えました。

「バットを剥奪されてバッターボックスに立たされたり、攻撃の時間の無い 守り・守備の時間だけの野球ゲームを強いられたり そんな状況」の 執行部の 私 加藤寿夫に対する 処し方が続いております。

「半年以上に及び拉致した上 封書を返してくる事」は「オリンピックの大切な観戦チケットを 閉会式の後 返却する」も同然です。この“責”を 問うております。

「私の前向きな申し出を打消し」「“個”で“責”が負え無く成ると 組織に責任を転嫁し「裁定委員会の「“すべて”と云う曖昧な“言”」の下「私の“師”が 数年前指摘した“共同責任・共同無責任体制”」「“黙る事”を強要」の 姿勢」この継続、解除願います。

### “ヨウ化カリウム備蓄について”の 第一義は何か

「マスとして 住民の命を護る」“意”から、浜岡原発周囲 吉田町までもが「放射性ヨウ度がばら撒かれた際 若者の健康を守る為に ヨウ化カリを内服し早急に圏外に避難する事」が 成される様、提言し 地方自治等に 周到に準備を進めさせる事。

### 裁定委員会として 組織として “責”のある返答

“棄却した内容”を 問うが 返答無く “すべて”と「各論無しで 無言・隠蔽 討議打ち切り」の姿勢。「“共同責任・共同無責任体制” この黙視は在り得ない状況」言語道断と申し、裁定委員会 組織として “責”ある返答を 現副会長石井英正氏に求めている。

以上 主だった4項目 まず最初に「榛原医師会の「緊急停止状態」即刻現世で処す事」と考える。執行部が“私的文書”とし 取り合わぬ姿勢は 解除すべき時勢である。

毎日の様に 会長 高木平氏本人には無論 事務長 増田薫氏 更に医師会執行部には私 加藤寿夫に「アクセスする事」「高木平会長自ら 私に連絡を入れていただくよう」申している。「逃げ隠れする“事”」無く「処す事」「前向きな姿勢を示す事」願う。

現状況で 榛原医師会 会長 高木平氏に求める事、「己の“非”から招じた鏑」について 無言・隠蔽 更に榛原医師会という組織を盾に使い 棄却[≠却下]「“共同責任・共同無責任体制” “組織の責任を放棄する”所業」この繰り返し、「これ以上は許されない「緊急停止状態」と判断、現世で 処し訂正して いただく。

「違うだろう…」と申す会員がいるなら「見て見ぬ振りをする姿勢」を問う。過去に起った一つひとつの“事”の起源 何も処されぬ事から 今の状況に至った経緯、この結末。“機能しない・動かない” “話し合いも 交渉事も皆無”の 我が医師会を悲しく知る現実。必要なのは 原点を再確認し 現状から 未来を築いていく事。 加藤寿夫

## 《看護師(若干名)募集のお知らせ》

時間 / 8:00 ~ 18:00(交代制・昼休み時間あり)・パート可  
 休日 / 日曜日・祭日・木,土曜日午後休診  
 待遇 / 各種保険完備・交通費支給・初年度年休 10 日間  
 給与 / 当院規定による(フル勤務 30 万/月・時給 1600 円以上)  
 資格 / 経験者・各種資格所有者 優遇

これから資格取得を目指す方 サポート  
 応募 / 電話にて連絡(0548-32-0701)の後 履歴書(写真添付)を連絡先を明記して 本院へ郵送

## 《診療案内》

毎日 朝 8:00 より 5分間 阿波踊り  
 体操をしております。是非御一緒

診療時間	月	火	水	木	金	土
8時～12時						
15時～18時				/		/

「朝の挨拶」の為 一般診療開始は 8:30 からです。  
 午後の受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。  
 休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

## 《第 85 回 睦会のお知らせ》

10月6日(土) 受付 12:30 開会 13:00  
 加藤内科医院 2階 講義室にて

## 《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないように 気を付け下さい。  
 9/10(月)、10/12(金)・13(土)・15(月)・16(火)午前、